

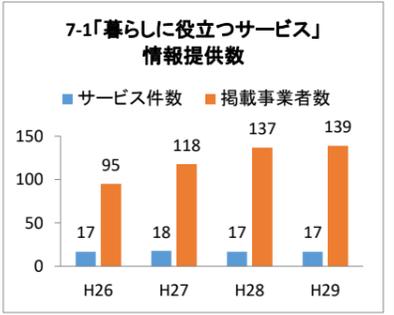
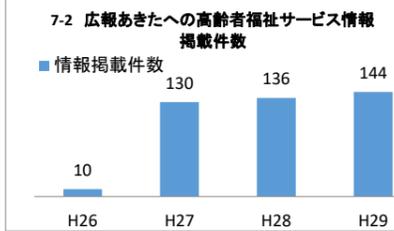
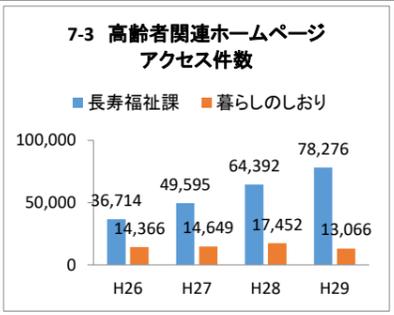
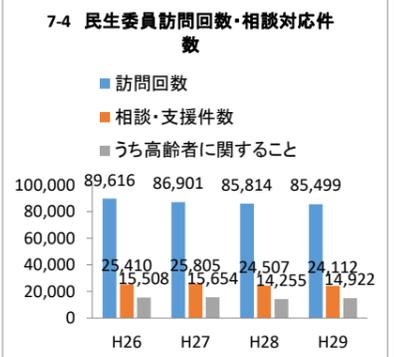
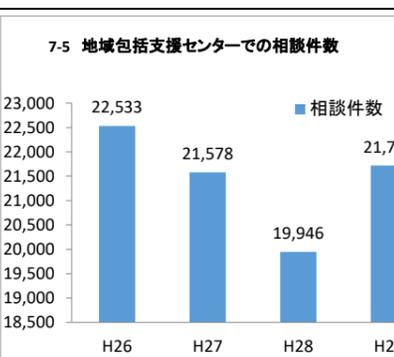
基本方針	意識指標 (主観的指標)	番号	指標	照会先	平成26年度～29年度の推移	H26	H27	H28	H29	評価・今後の検証																							
1 安心安全で誰もが集える屋外スペースと建物、施設の整備を進めます	近所を安心して外出できると感じている高齢者の割合(19.6%)	1-1	秋田市公共施設のバリアフリー化率	秋田県福祉政策課	<table border="1"> <caption>1-1 秋田市公共施設のバリアフリー化率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>バリアフリー化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>17.50%</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>18.40%</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>20.20%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>20.60%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	バリアフリー化率	H26	17.50%	H27	18.40%	H28	20.20%	H29	20.60%	17.50%	18.40%	20.20%	20.60%	(評価) 平成29年度の秋田県平均21.1%を若干下回っているものの、秋田市公共施設のバリアフリー化率は着実に上昇を続けている。 (今後の検証) 建築物だけではなく、鉄道、バス、道路などの交通施設から公共施設などへの連続したバリアフリー化の推進に、継続して取り組んでいく必要がある。													
		年度	バリアフリー化率																														
		H26	17.50%																														
H27	18.40%																																
H28	20.20%																																
H29	20.60%																																
1-2	高齢者の交通事故発生状況	秋田県警本部	<table border="1"> <caption>1-2 高齢者の交通事故発生状況</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>死者数</th> <th>うち高齢者数</th> <th>負傷者数</th> <th>うち高齢者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>1,129</td> <td>21</td> <td>151</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>1,097</td> <td>42</td> <td>165</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>1,199</td> <td>63</td> <td>201</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>1,099</td> <td>52</td> <td>167</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	年度	死者数	うち高齢者数	負傷者数	うち高齢者数	H26	1,129	21	151	4	H27	1,097	42	165	6	H28	1,199	63	201	5	H29	1,099	52	167	3	2	4	6	5	(評価) 平成29年の秋田市における交通事故の総件数は917件であり、前年(1,000件)より83件少なく、高齢者の死者数、負傷者数ともに減少している。また、特殊詐欺被害については、前年より増加しているが、県や県警は被害防止のために市民講座の開催や、啓発用パンフレットの作成・配布などを行い、広く啓発に努めている。 (今後の検証) 高齢者の交通事故に関しては、全国的に、周囲の視界が徐々に悪くなる薄暮時間帯から夜間において、自動車と歩行する高齢者の衝突事故が多く発生している。ドライバーのハイビームの有効活用や、高齢者の夜間における明るい服装・反射材の着用推奨などについて、警察などの関係機関と連携して啓発を図る必要がある。併せて、巧妙化する特殊詐欺の被害予防にも継続して努める必要がある。
年度	死者数	うち高齢者数	負傷者数	うち高齢者数																													
H26	1,129	21	151	4																													
H27	1,097	42	165	6																													
H28	1,199	63	201	5																													
H29	1,099	52	167	3																													
1-3	特殊詐欺被害件数	秋田県警本部	<table border="1"> <caption>1-3 高齢者の特殊詐欺被害件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>被害件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	年度	被害件数	H26	22	H27	39	H28	21	H29	24	22	39	21	24																
年度	被害件数																																
H26	22																																
H27	39																																
H28	21																																
H29	24																																
2 交通機関の利便性の向上をはかります	バスや電車などの交通機関は便利で利用しやすいと思う高齢者の割合(18.3%)	2-1	コインバス資格証明書交付率	長寿福祉課	<table border="1"> <caption>2-1 コインバス資格証明書交付率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>交付率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>57.96%</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>59.27%</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>60.80%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>62.03%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	交付率	H26	57.96%	H27	59.27%	H28	60.80%	H29	62.03%	57.96%	59.27%	60.80%	62.03%	(評価) 交付対象となる高齢者の増加により、今後も交付率の上昇が予想される。 (今後の検証) さらなる高齢者の外出促進を図るには、市民ニーズに合ったバス路線の維持についての検討や、バス停環境(屋根やベンチ設置等)の改善など、バスの利用環境の整備について検証が必要であると考えます。													
		年度	交付率																														
H26	57.96%																																
H27	59.27%																																
H28	60.80%																																
H29	62.03%																																
2-2	ノンステップバス、低床バス導入状況	(株)秋田中央交通	<table border="1"> <caption>2-2 ノンステップバス・低床バス導入率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>導入率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>54.10%</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>31.60%</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>40.20%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>45.40%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	導入率	H26	54.10%	H27	31.60%	H28	40.20%	H29	45.40%	54.10%	31.60%	40.20%	45.40%	(評価) 平成29年度末の全国平均(56.4%)は下回っているが、徐々に導入率は上昇している。 (今後の検証) ノンステップ・低床バスの導入というハード面の整備に合わせて、ソフト面(乗降時や荷物の持ち運びのサポート、座席の譲り合いなどバスの利用環境)も充実させることが必要であると考えます。															
年度	導入率																																
H26	54.10%																																
H27	31.60%																																
H28	40.20%																																
H29	45.40%																																

基本方針	意識指標 (主観的指標)	番号	指標	照会先	平成26年度～29年度の推移	H26	H27	H28	H29	評価・今後の検証										
		2-3	ユニバーサルデザインタクシー・福祉タクシー導入状況	秋田県ハイヤー協会	<p>2-3 ユニバーサルデザインタクシー・福祉タクシー導入率</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>導入率</th></tr> <tr><td>H26</td><td>10.70%</td></tr> <tr><td>H27</td><td>3.50%</td></tr> <tr><td>H28</td><td>7.70%</td></tr> <tr><td>H29</td><td>10.60%</td></tr> </table>	年度	導入率	H26	10.70%	H27	3.50%	H28	7.70%	H29	10.60%	10.70%	3.50%	7.70%	10.60%	<p>(評価) 平成29年度はユニバーサルデザインタクシーの大きな増加により、全体の導入率の上昇につながった。</p> <p>ユニバーサルデザインタクシー・福祉タクシー導入数 ※カッコ内は前年比 ユニバーサルデザインタクシー: 7事業者23車両(+3事業者、+12車両) 福祉タクシー: 4事業者33車両(+0事業者、+1車両)</p> <p>(今後の検証) 今後、全国的に要介護者や身体障がい者など移動制約者の福祉輸送サービスへのニーズは増加を続けると考えられ、事業者は、UDタクシーや福祉タクシーの導入を、企業価値を高めるビジネスチャンスとしてとらえる視点が必要である。また、本市の「暮らしに役立つサービス」への掲載などにより、導入事業者のPRを図る。</p>
年度	導入率																			
H26	10.70%																			
H27	3.50%																			
H28	7.70%																			
H29	10.60%																			
3 高齢者の住環境を整備します	現在の住環境に満足している高齢者の割合(住環境に何らかの不便・不満を感じている高齢者の割合(74.6%))	3-1	高齢者世帯のうち高齢者等の設備(バリアフリー化)の設置住宅の割合	住宅・土地統計資料 ※市住宅整備課ホームページより確認「秋田市住生活基本計画」						平成25年住宅・土地統計調査 ・バリアフリー化率 43.7% ※65歳以上の世帯員のいる主世帯総数53,050のうち、一定のバリアフリー化 23,200										
		3-2	住宅リフォーム助成件数、年間リフォーム実施比率	住宅整備課	<p>3-2 住宅リフォーム実施比率</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>実施比率</th></tr> <tr><td>H26</td><td>4.00%</td></tr> <tr><td>H27</td><td>2.93%</td></tr> <tr><td>H28</td><td>2.60%</td></tr> <tr><td>H29</td><td>2.30%</td></tr> </table>	年度	実施比率	H26	4.00%	H27	2.93%	H28	2.60%	H29	2.30%	4.00%	2.93%	2.60%	2.30%	<p>(評価) 住宅リフォーム比率は年々減少傾向にある。</p> <p>(今後の検証) 減少の背景として、「どのように住宅整備を行えば良いのか」「費用に対する助成はどのように得られるのか」など、必要な情報が十分に知られていないという可能性が考えられるため、改めて事業の周知を図っていく必要がある。</p>
		年度	実施比率																	
		H26	4.00%																	
H27	2.93%																			
H28	2.60%																			
H29	2.30%																			
3-3	介護保険制度における住宅改修件数	介護保険課	<p>3-3 介護保険制度における住宅改修件数</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>改修件数</th></tr> <tr><td>H26</td><td>1,106</td></tr> <tr><td>H27</td><td>1,059</td></tr> <tr><td>H28</td><td>933</td></tr> <tr><td>H29</td><td>828</td></tr> </table>	年度	改修件数	H26	1,106	H27	1,059	H28	933	H29	828	1,106	1,059	933	828	<p>(評価) 介護保険制度における住宅改修件数も年々減少傾向にある。</p> <p>(今後の検証) 3-2同様、介護保険制度における住宅改修についても、制度に関する分かりやすい周知を行っていく必要がある。</p>		
年度	改修件数																			
H26	1,106																			
H27	1,059																			
H28	933																			
H29	828																			
3-4	サービス付き高齢者向け住宅戸数	一般社団法人高齢者住宅協会 ※ホームページより確認	<p>3-4 サービス付き高齢者向け住宅戸数</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>戸数</th></tr> <tr><td>H26</td><td>542</td></tr> <tr><td>H27</td><td>611</td></tr> <tr><td>H28</td><td>672</td></tr> <tr><td>H29</td><td>686</td></tr> </table>	年度	戸数	H26	542	H27	611	H28	672	H29	686	542	611	672	686	<p>(評価) 平成23年にサ高住の登録制度が始まって以来、国による補助・税制・融資の支援を実施していることから、全国的にサ高住数は増加傾向にあるが、増加の波は緩やかになってきている。</p> <p>(今後の検証) 近年は、東京の高島平団地のように、空き住戸を活用したサ高住が見られる。国土交通省もサ高住の登録基準を一部緩めるなどの措置を行っており、今後、集合住宅の空き住戸対策としてサ高住の事例が全国的に増加していくと予想される。</p>		
年度	戸数																			
H26	542																			
H27	611																			
H28	672																			
H29	686																			

基本方針	意識指標 (主観的指標)	番号	指標	照会先	平成26年度～29年度の推移	H26	H27	H28	H29	評価・今後の検証									
4 高齢者の社会参加を図ります	余暇の過ごし方に満足している高齢者の割合 (56.9%)	4-1	過去一年以内に趣味・スポーツ・文化・生涯学習などの社会活動に参加した高齢者の割合	長寿福祉課	-			-		32.4% ※65歳以上の割合 ※平成27年度秋田市エイジフレンドリーシティ市民意識調査より									
		4-2	地域活動(地域での自治活動や市民活動)に参加している人の割合	地域福祉推進室	-			-		平成29年度 50.4% ※地域福祉計画の策定年度の前年度に行っている市民意識調査に基づく数値									
		4-3	大学で社会人向けに開催されている講座数	※県内8大学(短期大学含む)	<p>4-3 社会人向け大学講座数</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>講座数</th></tr> <tr><td>H27</td><td>87</td></tr> <tr><td>H28</td><td>101</td></tr> <tr><td>H29</td><td>122</td></tr> </table>	年度	講座数	H27	87	H28	101	H29	122					(評価) 大学により増減は見られるものの、全体的に公開講座数は増加している。平成29年度は、特に公立美術大学が大きく数を増やし、合計値の増加につながった。 秋田市内8大学の公開講座開催数 122件(+21) ※カッコ内は前年比 ※秋田大学: 42(+4)、秋田県立大学: 1(-9)、国際教養大学: 12(-5)、ノースアジア大学: 14(+1)、秋田公立美術大学: 42(+30)、日本赤十字秋田看護大学: 3(0)、聖園学園短期大学: 4(+3)、聖霊女子短期大学: 4(-3) (今後の検証) 平成27年度版高齢者白書によると、生涯学習に取り組む高齢者は5割以上であり、高齢者の学習意欲は高いという調査結果が出ている。人生100年時代の到来に向けて、多様な学びの機会を選択できる環境を整えるためにも、市民や社会のニーズに合った講座が今後も増加することが期待される。	
		年度	講座数																
		H27	87																
H28	101																		
H29	122																		
4-4	1日20分以上の運動を週1回以上実施している人の割合	保健総務課	-					50.70%	平成28年度 ・16歳～24歳 47.8% ・25歳～44歳 25.8% ・45歳～64歳 37.0% ・65歳以上 50.7% H28年度市民健康意識調査より										
4-5	地域サロン開催状況	秋田市社会福祉協議会	<p>4-5 地域サロン開催状況</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>サロン数</th></tr> <tr><td>H26</td><td>138</td></tr> <tr><td>H27</td><td>187</td></tr> <tr><td>H28</td><td>195</td></tr> <tr><td>H29</td><td>193</td></tr> </table>	年度	サロン数	H26	138	H27	187	H28	195	H29	193		138	187	195	193	(評価) 地域サロン数は昨年度から微減したが、ほぼ横ばいである。 (今後の検証) 現在、当指標項目のデータとして、秋田市社会福祉協議会の「地域サロン事業」の実績値を掲載している。高齢者生活支援体制整備事業による地域の支え合い体制の一環として生まれた、地域住民が主体のサロン活動も増えてきたことから、今後、当指標の実績値データに加える必要性を検討する。
年度	サロン数																		
H26	138																		
H27	187																		
H28	195																		
H29	193																		

基本方針	意識指標 (主観的指標)	番号	指標	照会先	平成26年度～29年度の推移	H26	H27	H28	H29	評価・今後の検証																																						
		4-6	高齢者がスポーツ活動に参加している割合	スポーツ振興課 秋田県社会福祉協議会	<p>4-6 高齢者向け健康運動教室</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>教室開催回数</th> <th>参加人数</th> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>20</td> <td>513</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>20</td> <td>1,126</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>20</td> <td>676</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>20</td> <td>804</td> </tr> </table>	年度	教室開催回数	参加人数	H26	20	513	H27	20	1,126	H28	20	676	H29	20	804	20	20	20	20	513	1,126	676	804	<p>(評価)</p> <p>大きく減少した昨年に比べると、参加者が増加した。</p> <p>(今後の検証)</p> <p>「高齢者向け健康運動教室」は、茨島体育館などで、普段運動する機会が少ない高齢者を対象に開催されている。毎回参加者に合わせてメニューを組んでいること、無料で参加できることなどから、周知等を強化することで、さらに参加者増加につながると思われる。今後、保健所が普及に取り組んでいる「いいあんべ体操」のサポーター数や「歩くべあきた」のシニアの部参加者数を当指標の実績値データに加える必要性を検討する。</p>																			
年度	教室開催回数	参加人数																																														
H26	20	513																																														
H27	20	1,126																																														
H28	20	676																																														
H29	20	804																																														
5	あらゆる世代がお互いを認め合う地域と社会をつくりまします 年齢を重ねることを肯定的に捉える人の割合 (26.3%)	5-1	高齢者や障がい者との交流や、福祉についての理解を授業に取り入れた学校の割合	教育委員会教育研究所	<p>5-1 高齢者や障がい者との交流活動を授業に取り入れた学校の割合</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>80.00%</td> <td>66.60%</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>81.80%</td> <td>69.60%</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>82.90%</td> <td>73.90%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>90.20%</td> <td>78.30%</td> </tr> </table>	年度	小学校	中学校	H26	80.00%	66.60%	H27	81.80%	69.60%	H28	82.90%	73.90%	H29	90.20%	78.30%	80.00%	81.80%	82.90%	90.20%	66.60%	69.60%	73.90%	78.30%	<p>(評価)</p> <p>「障がい者や高齢者などとの交流活動」の実践を行った割合は小学校・中学校ともに増加している一方、「福祉の現状を理解し、共感するための福祉体験活動」の実践を行った割合は、小学校では増加、中学校では減少傾向にある。これは、小学校では、施設訪問による交流に加えて、高齢者や障がい者の疑似体験、手話・点字教室など、理解・共感につながる幅広い福祉体験を行っている傾向があることと、小中学校両方に設けられている「総合的な学習時間」において、小学校では福祉教育を取り入れる傾向が強いのに対し、中学校では取り入れていないケースが多い結果と考えられる。</p> <p>(今後の検証)</p> <p>9割以上の小学校で「福祉体験活動」を行っていることと、中学校の「総合的な学習時間」で地域への愛着を育む学習内容が多く見られることから、中学校での「福祉体験活動」の割合低下が、高齢者への社会的包摂の低下につながるとは言いきれず、今後の推移の確認を継続する。</p>																			
					年度	小学校	中学校																																									
					H26	80.00%	66.60%																																									
H27	81.80%	69.60%																																														
H28	82.90%	73.90%																																														
H29	90.20%	78.30%																																														
<p>5-1 福祉体験活動を授業に取り入れた学校の割合</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>71.10%</td> <td>50.50%</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>79.50%</td> <td>69.60%</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>82.90%</td> <td>60.80%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>90.20%</td> <td>52.20%</td> </tr> </table>	年度	小学校	中学校	H26	71.10%	50.50%	H27	79.50%	69.60%	H28	82.90%	60.80%	H29	90.20%	52.20%	71.10%	79.50%	82.90%	90.20%	50.50%	69.60%	60.80%	52.20%																									
年度	小学校	中学校																																														
H26	71.10%	50.50%																																														
H27	79.50%	69.60%																																														
H28	82.90%	60.80%																																														
H29	90.20%	52.20%																																														
<p>5-2 エイジフレンドリーパートナー数および取組件数</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>パートナー数</th> <th>取組件数</th> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>24</td> <td>152</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>68</td> <td>398</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>81</td> <td>479</td> </tr> </table>	年度	パートナー数	取組件数	H27	24	152	H28	68	398	H29	81	479	-	24	68	81	-	152	398	479																												
年度	パートナー数	取組件数																																														
H27	24	152																																														
H28	68	398																																														
H29	81	479																																														
6	高齢者の就業や市民参加の機会を増やします	ボランティア活動や働くことにやりがいを感じている高齢者の割合 地域活動 56.9% 就労 65.5%	6-1	日常的にボランティア活動を行っている高齢者の割合と実人数	長寿福祉課 子ども未来センター 秋田市社会福祉協議会	<p>6-1 ボランティア活動を行っている高齢者の人数</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>介ボラ</th> <th>ファミサポ</th> <th>子育てボラ</th> <th>ボラセンター登録数</th> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>350</td> <td>88</td> <td>36</td> <td>2,439</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>374</td> <td>119</td> <td>39</td> <td>1,872</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>477</td> <td>133</td> <td>36</td> <td>1,902</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>513</td> <td>142</td> <td>36</td> <td>2,035</td> </tr> </table>	年度	介ボラ	ファミサポ	子育てボラ	ボラセンター登録数	H26	350	88	36	2,439	H27	374	119	39	1,872	H28	477	133	36	1,902	H29	513	142	36	2,035	350	374	477	513	88	119	133	142	36	39	36	36	2,439	1,872	1,902	2,035	<p>(評価)</p> <p>ボランティア活動を行っている人数は、概ね増加傾向である。ボランティア活動は、高齢者の活躍の場、社会的な役割を得られる場の一つとして大きな役割を持つと考えられる。</p> <p>(今後の検証)</p> <p>秋田市地域福祉市民意識調査(平成30年3月)によると、ボランティア活動などの「地域活動に参加していない」高齢者の理由として、「興味のもてる活動がない」が13.8%、「活動の内容(どのような活動があるのか)が分からない」が11.9%、「きっかけがない」が15.9%を占めている。このような層に情報が届くよう、様々な場面でPR活動に取り組む必要がある。</p>
年度	介ボラ	ファミサポ	子育てボラ	ボラセンター登録数																																												
H26	350	88	36	2,439																																												
H27	374	119	39	1,872																																												
H28	477	133	36	1,902																																												
H29	513	142	36	2,035																																												

基本方針	意識指標 (主観的指標)	番号	指標	照会先	平成26年度～29年度の推移	H26	H27	H28	H29	評価・今後の検証														
6 高齢者の就業や市民参加の機会を増やします	ボランティア活動や働くことにやりがいを感じている高齢者の割合 地域活動 56.9% 就労 65.5%	6-2	希望者全員が65歳を過ぎても働ける企業数と割合	秋田労働局 ※ホームページより確認	<table border="1"> <caption>6-2 65歳を過ぎても働ける企業数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>79.90%</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>80.50%</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>81.10%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>81.60%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	H26	79.90%	H27	80.50%	H28	81.10%	H29	81.60%	79.90%	80.50%	81.10%	81.60%	(評価) 生産年齢人口の減少に伴い、年々、65歳以上でも働ける企業が増加しており、今後もますます増加していくと考えられる。 (今後の検証) 余裕のある労働時間を可能にするシフト制の導入やワークシェアリング等による職務内容の見直し、健康管理のための取組など、高齢者がやりがいを感じながら長く働くことができる職場環境づくりにも、併せて取り組んでいく必要がある。				
		年度	割合																					
		H26	79.90%																					
		H27	80.50%																					
		H28	81.10%																					
H29	81.60%																							
6-3	60歳以上のうちシルバー人材センターへ会員登録している実人数と割合	秋田市シルバー人材センター	<table border="1"> <caption>6-3 シルバー人材センター登録数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>828</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>875</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>944</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>956</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実人数	H26	828	H27	875	H28	944	H29	956	828	875	944	956	(評価) 登録数は年々増加しているが、割合は横ばいである。 ※割合: 956/114,516 = 0.8% (今後の検証) 生きがい就労の創出という点で、シルバー人材センターが果たすべき役割は大きい。今後、本市でも元気な高齢者が増加していくと思われ、働く意欲のある高齢者に就労機会を提供できる環境を整えていく必要がある。						
年度	実人数																							
H26	828																							
H27	875																							
H28	944																							
H29	956																							
6-4	地域における支え合いのしくみづくりの先導的取組件数	長寿福祉課	<table border="1"> <caption>6-4 見守りネットワーク事業・安心キット事業</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対象世帯数</th> <th>訪問延べ回数</th> <th>安心キット設置数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>4,288</td> <td>39,554</td> <td>10,123</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>6,363</td> <td>52,195</td> <td>10,380</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>7,572</td> <td>53,321</td> <td>12,779</td> </tr> </tbody> </table>	年度	対象世帯数	訪問延べ回数	安心キット設置数	H27	4,288	39,554	10,123	H28	6,363	52,195	10,380	H29	7,572	53,321	12,779	見守り	4,288	6,363	7,572	(評価) 見守りネットワーク事業については、対象世帯・訪問延べ回数ともに、今後も増加することが予想される。また、安心キットは着実に設置世帯数を増やしている。 (今後の検証) 見守り対象世帯の今後の増加を見据え、見守りネット協力者の担い手・人材を確保していく必要がある。また、安心キットについては、緊急時の救急医療に大きな役割を持つ事業であり、高齢者にとっていざというときの安心感につながるため、設置の必要性の周知を続けるなど、継続して設置世帯数の増加に努める必要がある。
				年度	対象世帯数	訪問延べ回数	安心キット設置数																	
				H27	4,288	39,554	10,123																	
H28	6,363	52,195	10,380																					
H29	7,572	53,321	12,779																					
見守り	-	39,554	52,195	53,321																				
安心キット	10,123	10,380	12,779																					
6-5	地域における主体的な市民活動の取組件数	中央市民サービスセンター 地域福祉推進室 障がい福祉課 ※ホームページより確認	<table border="1"> <caption>6-5 市民活動の取組件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>取組件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>74</td> </tr> </tbody> </table>	年度	取組件数	H26	81	H27	86	H28	81	H29	74	81	86	81	74	(評価) 秋田市市民協働指針の策定に伴い、平成29年度から地域づくり交付金に、従来の「各地域分・地域の魅力普及分」に加え、「学生グループ・市民活動団体枠」が新しく設けられた。しかし、H29年度は「各地域分・地域の魅力普及分」の交付金申請数が減少し、2つの交付件数を合計しても、平成28年度に比較し9件減少となった。 当指標を測る3つの交付金の交付件数: 74件 ※以下が内訳。カッコ内は前年比 ※地域づくり交付金交付件数: 61件(-9件) 秋田市地域保健・福祉活動推進事業補助金交付件数: 8件(+2件) 障がい者等自発的活動支援事業補助金交付件数: 5件(-1件) (今後の検証) 平成30年度以降の増加が期待される。高齢者が参加しやすい活動や世代間交流などを目的とした活動が多く見られ、市民活動の活性化が高齢者の社会参加の促進と地域コミュニティの活性化につながるものと考えられる。						
年度	取組件数																							
H26	81																							
H27	86																							
H28	81																							
H29	74																							

基本方針	意識指標 (主観的指標)	番号	指標	照会先	平成26年度～29年度の推移	H26	H27	H28	H29	評価・今後の検証																		
7 高齢者の情報 環境を整備し ます	地域において、福祉相談 やサービスに関する情報が 入手しやすいと回答した高 齢者の割合 (20.6%)	7-1	「暮らしに役立つ サービス」の情報 提供数	長寿福祉 課	 <table border="1"> <caption>7-1「暮らしに役立つサービス」情報提供数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>サービス件数</th> <th>掲載事業者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>17</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>18</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>17</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>17</td> <td>139</td> </tr> </tbody> </table>	年度	サービス件数	掲載事業者数	H26	17	95	H27	18	118	H28	17	137	H29	17	139	17	18	17	17	(評価) サービス掲載事業者は微増、サービス件数自体は横ばいが続いている。一方、巻末に記しているフォーマルサービス掲載数は増加している。			
		年度	サービス件数	掲載事業者数																								
		H26	17	95																								
		H27	18	118																								
		H28	17	137																								
H29	17	139																										
7-2	広報あきたへの高 齢者福祉サービス 情報掲載件数	広報広聴 課	 <table border="1"> <caption>7-2 広報あきたへの高齢者福祉サービス情報掲載件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>情報掲載件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>136</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>144</td> </tr> </tbody> </table>	年度	情報掲載件数	H26	10	H27	130	H28	136	H29	144	10	130	136	144	(評価) 高齢者福祉サービスの情報掲載数は年々増加している。										
年度	情報掲載件数																											
H26	10																											
H27	130																											
H28	136																											
H29	144																											
7-3	秋田市高齢者関 連ホームページア クセス件数	アクセス 解析ツ ール	 <table border="1"> <caption>7-3 高齢者関連ホームページアクセス件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>長寿福祉課</th> <th>暮らしのしおり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>36,714</td> <td>14,366</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>49,595</td> <td>14,649</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>64,392</td> <td>17,452</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>78,276</td> <td>13,066</td> </tr> </tbody> </table>	年度	長寿福祉課	暮らしのしおり	H26	36,714	14,366	H27	49,595	14,649	H28	64,392	17,452	H29	78,276	13,066	36,714	49,595	64,392	78,276	(評価) 高齢者がインターネット(PC、タブレット、スマホ)を活用して情報を収集できることが窺える。あるいは、離れて暮らす子ども世代が、本市の情報を検索している可能性もある。					
年度	長寿福祉課	暮らしのしおり																										
H26	36,714	14,366																										
H27	49,595	14,649																										
H28	64,392	17,452																										
H29	78,276	13,066																										
7-4	民生委員訪問回 数・相談対応件 数	地域福祉 推進室	 <table border="1"> <caption>7-4 民生委員訪問回数・相談対応件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>訪問回数</th> <th>相談・支援件数</th> <th>うち高齢者に関する件</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>89,616</td> <td>25,410</td> <td>15,508</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>86,901</td> <td>25,805</td> <td>15,654</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>85,814</td> <td>24,507</td> <td>14,255</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>85,499</td> <td>24,112</td> <td>14,922</td> </tr> </tbody> </table>	年度	訪問回数	相談・支援件数	うち高齢者に関する件	H26	89,616	25,410	15,508	H27	86,901	25,805	15,654	H28	85,814	24,507	14,255	H29	85,499	24,112	14,922	89,616	86,901	85,814	85,499	(評価) 訪問回数、相談・支援回数ともに年々減少している。
年度	訪問回数	相談・支援件数	うち高齢者に関する件																									
H26	89,616	25,410	15,508																									
H27	86,901	25,805	15,654																									
H28	85,814	24,507	14,255																									
H29	85,499	24,112	14,922																									
7-5	地域包括支援セン ターでの相談件数	長寿福祉 課	 <table border="1"> <caption>7-5 地域包括支援センターでの相談件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>相談件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>22,533</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>21,578</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>19,946</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>21,720</td> </tr> </tbody> </table>	年度	相談件数	H26	22,533	H27	21,578	H28	19,946	H29	21,720	22,533	21,578	19,946	21,720	(評価) 平成29年度は、介護保険制度の改正があり相談件数の増加が見られた。相談件数は2万件前後を推移している。 ※平成26年度は地域包括支援センターが3カ所に新設されたため、特に多い。										
年度	相談件数																											
H26	22,533																											
H27	21,578																											
H28	19,946																											
H29	21,720																											

基本方針	意識指標 (主観的指標)	番号	指標	照会先	平成26年度～29年度の推移	H26	H27	H28	H29	評価・今後の検証														
8 保健、福祉、 医療サービスを 充実させ、 地域社会の支 援体制を整え ます	医療、福祉 サービスの充 実に満足して いる高齢者の 割合 (15.5%)	8-1	秋田市の健康寿 命と平均寿命	保健総務 課	-					健康寿命 男性 78.68年 女性 83.12年 平均寿命 男性 80.22年 女性 86.74年 ※平成27年度試算値。 国・県の健康寿命「日常生活に制限のない期間の平均」 市の健康寿命「日常生活動作が自立している期間の平均」														
		8-2	65歳以上のうち要 介護認定を受け ている人の割合	介護保険 課	<table border="1"> <caption>8-2 65歳以上のうち要介護認定を受けている割合</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>20.70%</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>21.30%</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>20.60%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>20.30%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	割合	H26	20.70%	H27	21.30%	H28	20.60%	H29	20.30%	20.70%	21.30%	20.60%	20.30%	(評価) 65歳以上の要介護(要支援)認定者数は増加しているが、母数の増加に伴い割合は減少している。 平成26年度:18,186人 平成27年度:18,429人 平成28年度:18,573人 平成29年度:18,885人 (今後の検証) 健康寿命の延伸に向けて、第2次健康あきた市21(保健総務課策定)に基づき、生活習慣の見直しや、各ライフステージ別の健康づくりの取組を積極的に推進するなどし、さらなる介護予防に努める必要がある。				
		年度	割合																					
		H26	20.70%																					
H27	21.30%																							
H28	20.60%																							
H29	20.30%																							
8-3	認知症サポ ーター養成講座開 催回数、受講者 数	長寿福祉 課	<table border="1"> <caption>8-3 認知症サポーター要請講座</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>講座開催回数</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>116</td> <td>4,015</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>165</td> <td>4,034</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>135</td> <td>3,149</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>106</td> <td>2,873</td> </tr> </tbody> </table>	年度	講座開催回数	受講者数	H26	116	4,015	H27	165	4,034	H28	135	3,149	H29	106	2,873	講座数	116	165	135	106	(評価) 年ごとの開催件数、受講者数は減少しているが、サポーター数の合計人数は着実に増加をし、平成29年度末で19,500人を超えている。 (今後の検証) 超高齢社会における地域社会づくりには、認知症を誰にでも起こりうる身近な問題としてとらえる意識が大切であるため、あらゆる世代において、サポーター数の増加を図ることが必要である。加えて、パートナー事業者に対しては、積極的に取り組むよう提案するとともに、受講機会を提供するなどし、さらなる受講者増加を図る。
年度	講座開催回数	受講者数																						
H26	116	4,015																						
H27	165	4,034																						
H28	135	3,149																						
H29	106	2,873																						
8-4	高齢者の権利擁 護対応件数	長寿福祉 課 秋田市社 会福祉協 議会 裁判所	<table border="1"> <caption>8-4 高齢者の権利擁護対応件数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>後見人市長申立件数</th> <th>日常生活自立支援事業利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>10</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>1</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>8</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>12</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table>	年度	後見人市長申立件数	日常生活自立支援事業利用者数	H26	10	47	H27	1	39	H28	8	29	H29	12	29	後見人申立	10	1	8	12	(評価) 後見人市長申立件数は増加傾向、日常生活自立支援事業利用者数は横ばいである。 (今後の検証) 認知症高齢者の増加により、今後高齢者の権利擁護の必要性はさらに高まっていくと予測される。必要時に利用できるよう、周知の強化を図る必要がある。
年度	後見人市長申立件数	日常生活自立支援事業利用者数																						
H26	10	47																						
H27	1	39																						
H28	8	29																						
H29	12	29																						
				自立支援	47	39	29	29																